

2020年 社長年頭挨拶(要旨)について

山陽特殊製鋼株式会社(社長 樋口眞哉、本社 兵庫県姫路市)は、2020年1月6日(月)に本社講堂にて、2020年始業式を挙げていたしました。始業式における社長挨拶の内容(要旨)は以下のとおりです。

ご安全に！そして、明けましておめでとうございます。

昨年は、日本製鉄による当社子会社化およびOvakoの完全子会社化など、当社の歴史に残る大きな節目の年となりました。小径・小ロット化といった需要構造変化に対応する第二工場のリフレッシュ工事も進捗し、長期的視点に立った取り組みが進展しました。

しかしながら、当社グループを取り巻く足元の経営環境は、米中貿易摩擦等に起因する世界的な需要減退と在庫調整のあおりを受けて、極めて厳しい状況です。特殊鋼需要の過半を占める自動車業界では、100年に一度と言われる大変革の時代を迎えています。自動車販売の落ち込みは一過性でいずれ回復するという見方がある一方で、カーシェアリングの普及といった自動車の所有形態の変化が世界的に進行し、販売の減少が底を打っても元の水準には戻らないのではとの見方もあります。また、需要の減退は自動車市場だけでなく、建設機械や工作機械等においても販売量が前年割れの状況が続き、海外子会社の事業についても、スウェーデンのOvakoはEU経済の減速を受けて困難な状況が今もなお継続、インドのMSSSは自動車販売の長期低迷や大幅な在庫調整などにより販売量が想定以上に悪化するなど、深刻な状況が続いています。この苦難の状況を一刻でも早く乗り越えるべく、拡販とコスト削減に取り組んでいますが、今後はさらに踏み込んだ収益改善対策が必要です。

このような環境認識のもと、今年は「安全」、「コストミニマムの追求」「シナジーの早期発現」の3つのことをお願いしたい。

まず、こういう厳しい時こそ安全第一です。2020年の安全スローガンは「当事者意識を強く持ち 意識をそろえ、目線をそろえ、全員参加の安全活動」としました。人間はロボットではないため、常に同じコンディションではありません。「つい」という時は必ずあり、それでも安全に仕事ができるように確実に対策を打っていくことが、私達の使命であり義務です。今年一年、一人も被災者を出さないことを、皆さん全員と誓いたい。

また、当面受注量の増加が望めない中では、不要不急の出費を控え、効率化・コストダウンにつながる案件を迅速に実行し、コストミニマム操業を徹底しなければなりません。各部門が今まで以上に知恵を出し合い、この難局を乗り越えていきましょう。

そして、日本製鉄、Ovakoとの3社連携によるシナジー発現の道筋をつけるという意味では、今年が正念場となります。シナジーの発現は、他社にはない我々の強みであり、今までに出来なかったことや、現状の問題を乗り越えるための強力な糧にもなり得ます。広い柔軟な視野とスピード感を持って、世界の仲間と共に、相乗効果の発揮に取り組んでいきましょう。

会社の社会的使命に目を向けると、コンプライアンスの徹底とCSR経営に取り組んでいくことも重要です。「持続可能な社会の実現」に沿った事業活動を推進していかなければなりません。

現在、当社グループは危機と言うべき大変厳しい経営環境に晒されていますが、この難局をみんなで力を合わせて、30年先、50年先も「高信頼性鋼の山陽」として、グローバル市場において持続的成長が出来るよう、グループ一丸となって頑張っていきたいと思います。

山陽特殊製鋼株式会社
代表取締役社長 樋口 眞哉